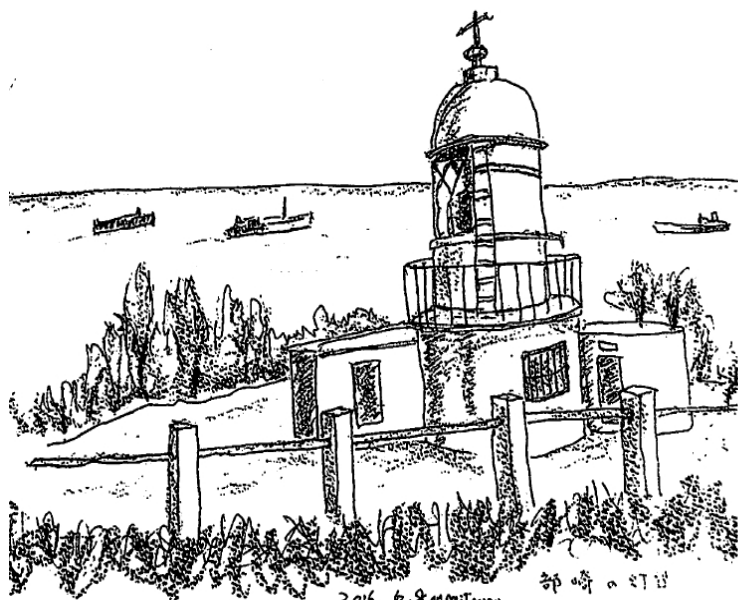


週報2020年7月12日



2020年教会標語聖句

**キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。**

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

**牧師：山崎銀次郎**

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2020年7月12(日)

|          |                        |
|----------|------------------------|
| 前奏       | 力丸勝子 師                 |
| 開会の祈り    | 山崎銀次郎 師                |
| 信仰告白     | 使徒信条                   |
|          | 標語聖句唱和「コロサイ書 3章 15節」   |
| 讃美       | 新聖歌 209「慈しみ深き」1・3節     |
| 献身の祈り    | 山崎銀次郎 師                |
| 賛美       | 新聖歌 396「慕いまつる主の」1・3・4節 |
| 聖書朗読     | マタイによる福音書 11章 25～30節   |
| 説教題      | 「イエス様のくびき」             |
| お祈り      | 御言葉の応答の祈り              |
| 祝福と派遣の祈り | 山崎銀次郎 師                |
| 後奏       | 力丸勝子 師                 |

# 説教要約

マタイによる福音書 11 章 25 節～30

「イエス様のくびき」

## I. 導入

マタイの福音書 11 章の冒頭でバプテスマのヨハネがイエス様につまづきそうになっています。「悔い改めよ、天の国は近づいた」と熱心に悔い改めを迫るヨハネからすると、イエス様は熱心ではないように感じたようです。そして 11 章は続いてイエス様の奇跡を目の当たりにした町々が、それにもかかわらず悔い改めなかった事について書かれています。最後に 12 章に入ると律法学者はイエス様につまづきました。律法を遵守する彼らからすると、イエス様が律法に対して不従順だったからです。イエス様がこれらの人々を通じて最も言いたかったことは、「だれもわたしにつまづかない者は幸いです。」という事です。

そのような文脈の中でイエス様はこうに言われました。「私のくびきを負いなさい。」くびきとは本来、農耕用具です。牛馬などの家畜を 2 頭以上並列に並べ、進行方向を揃える為(引っ張る力を生み出す為)の横木の事です。聖書はそのような家畜の姿に倣って、常に従順に神に従う事を教えています。イエス様は神に対する従順を貫き、へりくだって、十字架の道のりを歩まれました。それは全ての人の魂を罪から救うためです。これが御子イエス・キリストの情熱です。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」神のくびきを負うて御心に従ったイエス様。そしてそのイエス様を信じて一緒にくびきを負う人。つまりこれが「つまづかない者」です。

当時のイスラエルはローマ帝国の圧政に苦しみ、律法学者や祭司たちの過剰な律法主義のプレッシャーにおし潰されそうになっていました。つまり民衆の心の休まる所が無かったのです。歴史を辿れば当時のローマ社会は華やかでしたが、実際は人々の間に閉塞感と不信感が蔓延していたと言われています。そのような中でイエス様は 2 つの事を教えています。1 つ目はイエス様の只中に真の平安がある事、2 つ目はどのような中であってもキリストの弟子として御言葉に従う事です。つまづかない人は神からの休みを得ると聖書は約束しています。

## II. 本論(証)

これはフィリピンに留学する直前の話です。中央聖書神学校を卒業した後、

3 ヶ月ほど母教会に戻り、留学の準備をしていました。そしてあっという間にその期間が過ぎ、フィリピンに旅発つ日がやってきました。そして未信者の両親と姉が(旅発つ前の)最後の礼拝に出席すると言ってくれました。それだけでもとても嬉しかったのですが、父はこの時「息子が教会に世話になったのでお礼の一つでも言いたい」と言いました。その言葉にとっても驚き、感動しました。

礼拝が終わり、牧師が私と家族を前に呼びました。そこで皆さんに祝福の為に祈って頂き、最後に私から教会の皆さんへ挨拶をした時でした。両親も姉も合わせて頭を下げてくれた時、隣にいた父が皆に聞こえるか聞こえないくらいの声で「よろしくお願いします」と言いました。私はこの時、涙を堪えるのに必死でした。父が教会に来たのは私の為に頭を下げる為だと理解したからです。

神様はこのような状況を通じて大切な学びを私に与えて下さいました。つまり大切な教えとは謙遜から来る自己犠牲、そして愛と慈しみの伴う情熱です。私はこの時、頭を下げてくれる家族、いつも心にかけて祈って下さる教会の方々を通じてイエス様の愛をさらに深く知りました。私が留学を決めた理由はイエス様の事をもっと知りたかったからです。そしてこの学びは留学を終えた今も続いています。

## III. 結論

私達は信仰の戦いの中で、プレッシャーを感じ、色々な重圧に押しつぶされ、心も、信仰もペしゃんこになりそうな時があります。そのような時「イエス様はいつ助けてくれるのだろうか?」「イエス様はこの状況はあまりにも理不尽です。」「イエス様、私は同じ失敗を繰り返すダメなクリスチャンです。」と嘆いたり、くじけそうになる事があります。

しかし、そのようなうなだれる時、神の御心を知るチャンスでもあります。イエス様は全ての人間の欲望、恥、罪の重荷を背負って十字架にかかられました。神のくびきを負うた、イエス様によって私達はいつでもその重荷を主の御前に降ろす事が出来ます。つまり心うなだれる時は、神に頭をたれる時なのです。私達に最も必要な事は神から魂のやすらぎを得る事です。

私達は主の御前に嘆き、叫ぶことが許されています。しかし大切な事は、主の御心を尋ね求めているかという事です。それは今日の教えに従って言うなら、イエス様の轡を負っているかという事です。その時、魂は平安を得、慈しみ、愛、謙遜、柔和を知ります。神の心に触れる事を通して私達は神と人間の前に従順になる事が出来ます。共に主を見上げて前進してまいりましょう。

## 新聖歌209「慈しみ深き」 1・3節

1. 慈しみ深き 友なるイエスは 罪 咎 憂いを 取り去り給う  
心の嘆きを包まず述べて などかは降ろさぬ 負える重荷を
2. 慈しみ深き 友なるイエスは われらの弱きを 知りて憐れむ  
悩み悲しみに 沈める時も 祈りに応えて 慰め給わん
3. 慈しみ深き 友なるイエスは 変わらぬ愛もて 導き給う  
世の友われらを 棄て去る時も 祈りに応えて 労り給わん

## 新聖歌 396「慕いまつる主の」 1・3・4 節

1. 慕いまつる主の 御招きある今 十字架担い行かん 愛する主の後を  
※ 何処までも行かん×3 愛する主の後を
2. 血潮混じる汗 流し祈る主の ゲッセマネにも行かん 愛する主の後を ※
3. 打たれ ののしられ 辱め受くる 人前にも行かん 愛する主の後を ※
4. 君の御恵みに 浸りしわが身は 栄え望み行かん 愛する主の後を ※

## マタイによる福音書11章 25～30 節「イエス様のくびき」

新改訳改訂第3版

マタイによる福音書

- 11:25 そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現してくださいました。
- 11:26 そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。
- 11:27 すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。それで、父のほかには、子を知る者がなく、子と、子が父を知らせようと心に定めた人のほかは、だれも父を知る者がありません。
- 11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。
- 11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。
- 11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」